

LAC → B ←
supports your business

*We provide IT total solutions
based on advanced security technologies.*



2020年3月期 第3四半期決算説明資料

2020年2月7日

株式会社ラック

1. 2020年3月期 第3四半期決算概要

2. 2020年3月期 連結業績予想

3. 補足資料

売上高は、SSS事業のサービス売上減があったものの、
セキュリティ製品やHW/SW販売の増加により増収

利益は、全社共通費用の増加やSSS事業の体制強化のための先行投資により**大幅減益**

（百万円）

科目	'19年3月期 3Q累計実績	'20年3月期 3Q累計実績	前年同期比増減	
			増減額	増減率(%)
売上高	26,795	28,810	+2,015	+7.5
営業利益	1,111	370	△740※	△66.7
営業利益率%	4.1	1.3	△2.8.p	-
経常利益	1,109	441	△667	△60.2
経常利益率%	4.1	1.5	△2.6p	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	648	278	△370	△57.1

※全社共通費用403百万円が含まれています（うち、IT投資、業務効率向上のための投資分は約200百万円）。

セグメント別業績（前年同期比）

S S S事業は増収減益、S I S事業は増収増益
社内ITシステム刷新やオフィス開設などの投資等で全社共通費用が増加

（百万円）

売上高	'19年3月期 3Q累計実績	'20年3月期 3Q累計実績	前年同期比増減	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	10,401	11,464	+1,062	+10.2
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	16,393	17,346	+952	+5.8
合計	26,795	28,810	+2,015	+7.5

（百万円）

セグメント利益	'19年3月期 3Q累計実績	'20年3月期 3Q累計実績	前年同期比増減	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	1,512	1,078	△433	△28.7
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	1,891	1,986	+95	+5.0
合計	3,403	3,065	△337	△9.9

全社共通費用	△2,292	△2,695	△403	-
--------	--------	--------	------	---

※セグメント利益は、全社共通費用を組み入れる前の、事業にかかる販売費および管理費を含めた利益です。

製品販売の伸長により増収、体制強化のための先行投資と新サービス立ち上げに伴う償却費増により**減益**

●コンサルティングサービス

企業内のセキュリティ対策チームの運用支援案件が減少

●診断サービス

企業内ネットワークなどの脆弱性を審査するプラットフォーム診断は伸長したものの、Webアプリケーション診断の常駐型案件等が減少

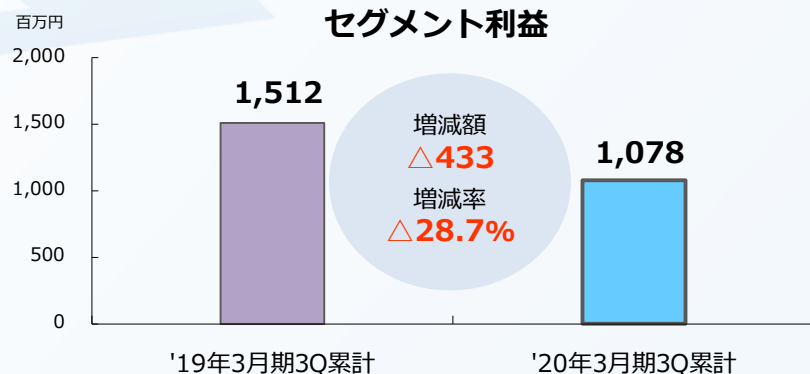
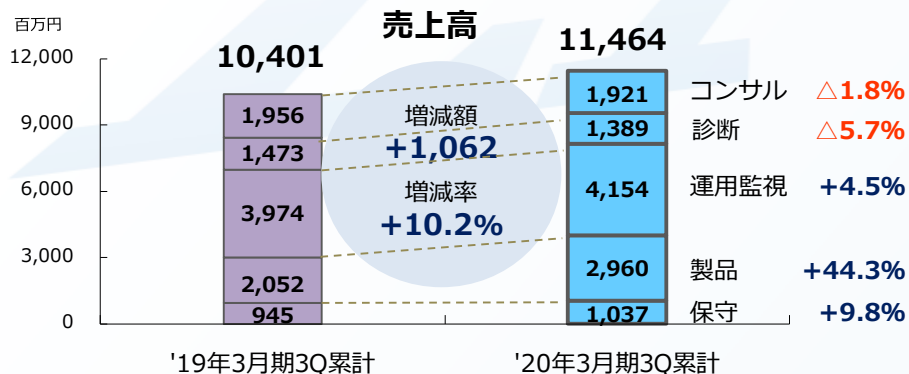
●運用監視サービス

新規案件の獲得が伸び悩んだものの、中部地域大手製造業向け運用監視サービスの売上が拡大

●製品販売

サービス妨害型攻撃にも対応したWebセキュリティ対策製品が引き続き拡大するとともに、潜在的な脅威情報を調査する製品の販売も寄与

採用や教育など体制強化のための先行投資と新サービス立ち上げに伴う減価償却費の増加等により、セグメント利益は減益



開発サービス、HW/SW販売が拡大したことにより増収増益

● 開発サービス

前年同期の大型案件による売上・仕掛計上が当第3四半期累計期間にはなく、金融業などにおいて新規受注案件の獲得が計画通り進まなかった状況にはあったものの、情報サービス業を中心とした金融業以外の案件が拡大

● HW/SW販売

クラウドサービスの拡大などにより需要が縮小するなか、更新案件などの獲得が堅調

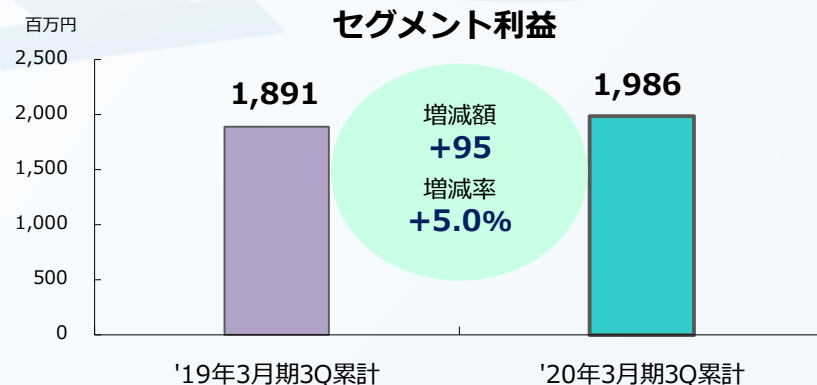
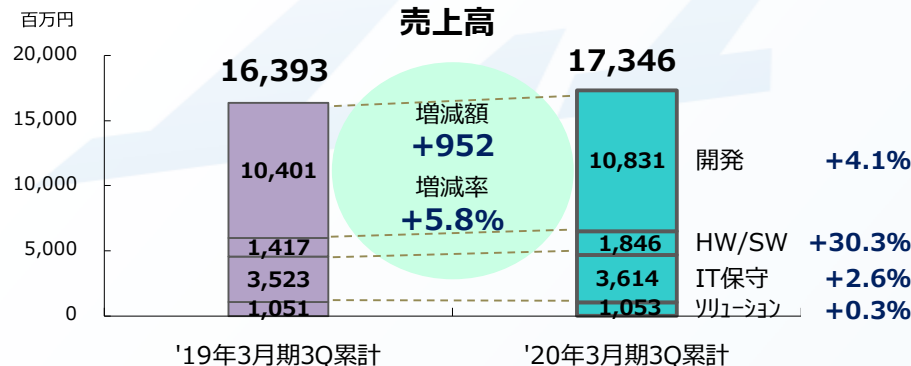
● IT保守サービス

前期HW/SW販売は低調であったのに対し、当第3四半期累計期間は契約更新案件等が増加

● ソリューションサービス

子会社の(株)ジャパン・カレントが提供するデジタルマーケティングサービスの売上が伸び悩んだものの、データセンター関連等のサービスが伸長

HW/SW販売を中心とした増収効果により、セグメント利益は増益



連結貸借対照表ハイライト（前期末比）

事業上の必要資金を確保しつつ、引き続き安定した財務基盤を維持

（百万円）

科目	'19年3月期末	'20年3月期 3Q末	前期末比 増減
資産合計	22,613	21,758	△854
流動資産	16,464	14,692	△1,771
固定資産	6,148	7,065	+917
負債合計	11,308	10,603	△704
流動負債	9,632	9,283	△349
固定負債	1,675	1,320	△355
純資産合計	11,305	11,154	△150
現預金	4,343	4,699	+356
有利子負債	2,351	3,922	+1,570
自己資本比率	50.0%	51.3%	+1.3p

増減ポイント

資産

【流動資産】

- ・受取手形及び売掛金の減少 △1,624
- ・その他に含まれる前払費用の減少 △2,816
- ・その他に含まれる前渡金の増加 +745
- ・商品の増加 +667

【固定資産】

- ・その他に含まれるソフトウェアの増加 +724

負債

【流動負債】

- ・短期借入金の増加 +2,000
- ・その他に含まれる前受金の増加 +552
- ・その他に含まれる前受収益の減少 △2,779

【固定負債】

- ・長期借入金の減少 △366

純資産

【純資産】

- ・利益剰余金の減少 △133

1. 2020年3月期 第3四半期決算概要

2. 2020年3月期 連結業績予想

3. 補足資料

第3四半期累計期間の状況を踏まえて業績予想を修正

主なポイント

- S S S事業は、設備投資した中堅・中小企業向け監視システム「CloudFalcon®」の販売体制の構築や、エンドポイントセキュリティなど他の新サービス展開が想定より遅れており、売上高・利益ともに計画を下回る見込み
- S I S事業は、計画に組み入れていた新規開発案件の中止に加え、一部大型案件で想定外の追加対応が必要になったことにより、新規受注案件の獲得が順調に進まず、売上・利益ともに計画を下回る見込み
- 加えて、今後の事業拡大のための基盤強化に向けた、人材の確保・教育ならびに新規サービス開発などへの積極投資の推進によりコストは増加

売上高は予想を下回る見込み 利益は両事業のサービス売上が計画を下回り大幅未達の見込み

（百万円）

科目	'20年3月期通期 前回予想（19/5/13）	'20年3月期通期 今回予想（20/2/7）	前回予想比	
			増減額	増減率（%）
売上高	44,000	40,500	△3,500	△8.0
営業利益	2,500	1,650	△850	△34.0
営業利益率％	5.8	4.0	△1.7 p	-
経常利益	2,530	1,700	△830	△32.8
経常利益率％	5.8	4.1	△1.6 p	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,700	1,000	△700	△41.2
自己資本当期純利益率(ROE)％	14.0	8.6	△5.4 p	-

（注）（株）日本貿易保険との契約に関わる2019年3月期の仕掛分については、同社との協議には時間がかかることが予想されたことから上記通期業績予想には含んでおりません。

製品販売は計画を上回るものの、サービス売上が計画を大幅に下回る見込み

（百万円）

	'20年3月期通期 前回予想（19/5/13）	'20年3月期通期 今回予想（20/2/7）	前回予想比	
			増減額	増減率（%）
売上高	18,000	16,460	△1,540	△8.6
セグメント利益	3,150	2,380	△770	△24.4

- ・ 標的型攻撃などのサイバー攻撃による被害は依然として拡大傾向にあり、緊急対応案件などは増加しているものの、中堅・中小企業向け監視システム「CloudFalcon」やエンドポイントセキュリティ等の新サービスが拡大せず、売上高は計画を下回る見通し
- ・ 需要拡大を見越した体制強化のための人員増や、新サービス立ち上げに伴う減価償却費増などに見合った売上拡大ができず、利益は大幅未達となる見通し
- ・ 一方で、エンドポイント対策、グループ企業を含めたサプライチェーン対策の需要拡大が見込まれ、体制強化した基盤を活かし、来期の収益拡大を狙う

HW／SW販売は計画を上回るものの、開発サービスが計画を大幅に下回る見込み

（百万円）

	'20年3月期通期 前回予想（19/5/13）	'20年3月期通期 今回予想（20/2/7）	前回予想比	
			増減額	増減率（%）
売上高	26,000	24,040	△1,960	△7.5
セグメント利益	3,500	2,830	△670	△19.1

- ・ 好調なIT投資需要により引き合いはあるものの、計画に組み入れていた新規開発案件の中止に加え、一部大型案件で想定外の追加対応が必要になったことにより、新規案件の獲得が順調に進まなかったことから、売上高、利益とも計画を下回る見込み
- ・ 顧客課題解決型へのSIサービスへの変革に向けて、アジャイル開発センターやキラーツールを切り口とした新たなサービスを展開中。収益への本格寄与は来期の見込み
- ・ 一部大型案件の追加対応は収束し、また引き合いが好調なクラウド案件はエンジニアをシフトしたことで案件が拡大しており、来期の収益拡大を狙う

売上高は増収を見込む。利益は、SSS事業のサービス売上減や減価償却費増、全社の業務効率改善への投資のため減益となる見込み

（百万円）

科目	'19年3月期 通期実績	'20年3月期 通期予想（20/2/7）	前期比	
			増減額	増減率（%）
売上高	38,719	40,500	+1,780	+4.6
営業利益	2,366	1,650	△716	△30.3
営業利益率%	6.1	4.0	△2.1 p	-
経常利益	2,411	1,700	△711	△29.5
経常利益率%	6.2	4.1	△2.1 p	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,547	1,000	△547	△35.4
自己資本当期純利益率(ROE)%	14.5	8.6	△5.9 p	-

（注）(株)日本貿易保険との契約に関わる2019年3月期の仕掛分については、同社との協議には時間がかかることが予想されたことから上記通期業績予想には含んでおりません。

SSS事業は増収減益、SIS事業は増収増益を見込む

（百万円）

売上高	'19年3月期 通期実績	'20年3月期 通期予想（20/2/7）	前期比	
			増減額	増減率（%）
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	15,337	16,460	+1,122	+7.3
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	23,381	24,040	+658	+2.8
合計	38,719	40,500	+1,780	+4.6

（百万円）

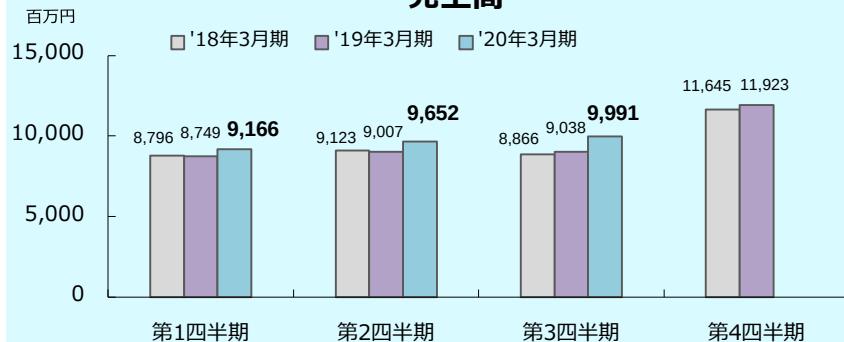
セグメント利益	'19年3月期 通期実績	'20年3月期 通期予想（20/2/7）	前期比	
			増減額	増減率（%）
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	2,632	2,380	△252	△9.6
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	2,800	2,830	+29	+1.1
合計	5,433	5,210	△223	△4.1
全社共通費用	△3,066	△3,560	△493	-

※セグメント利益は、全社共通費用を組み入れる前の、事業にかかる販売費および管理費を含めた利益です。

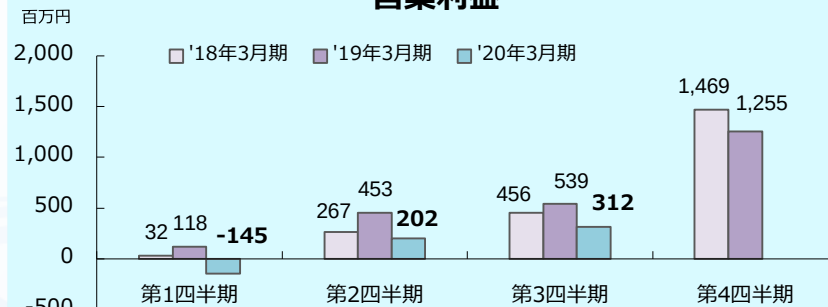
1. 2020年3月期 第3四半期決算概要
2. 2020年3月期 連結業績予想
- 3. 補足資料**

2020年3月期 連結業績（四半期）

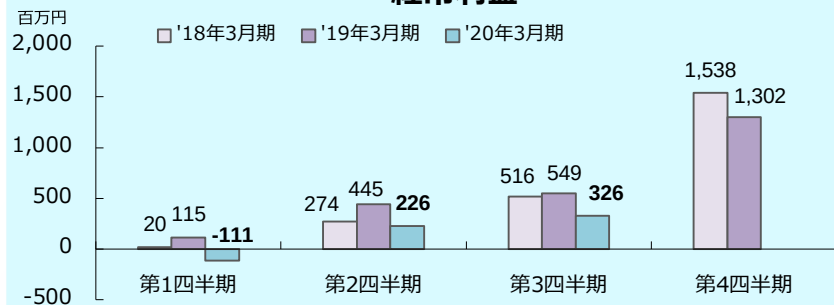
売上高



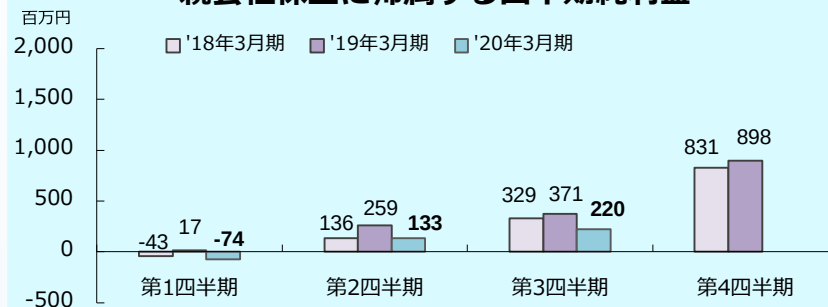
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



2020年3月期 セグメント別業績（3Q：3カ月）

（百万円）

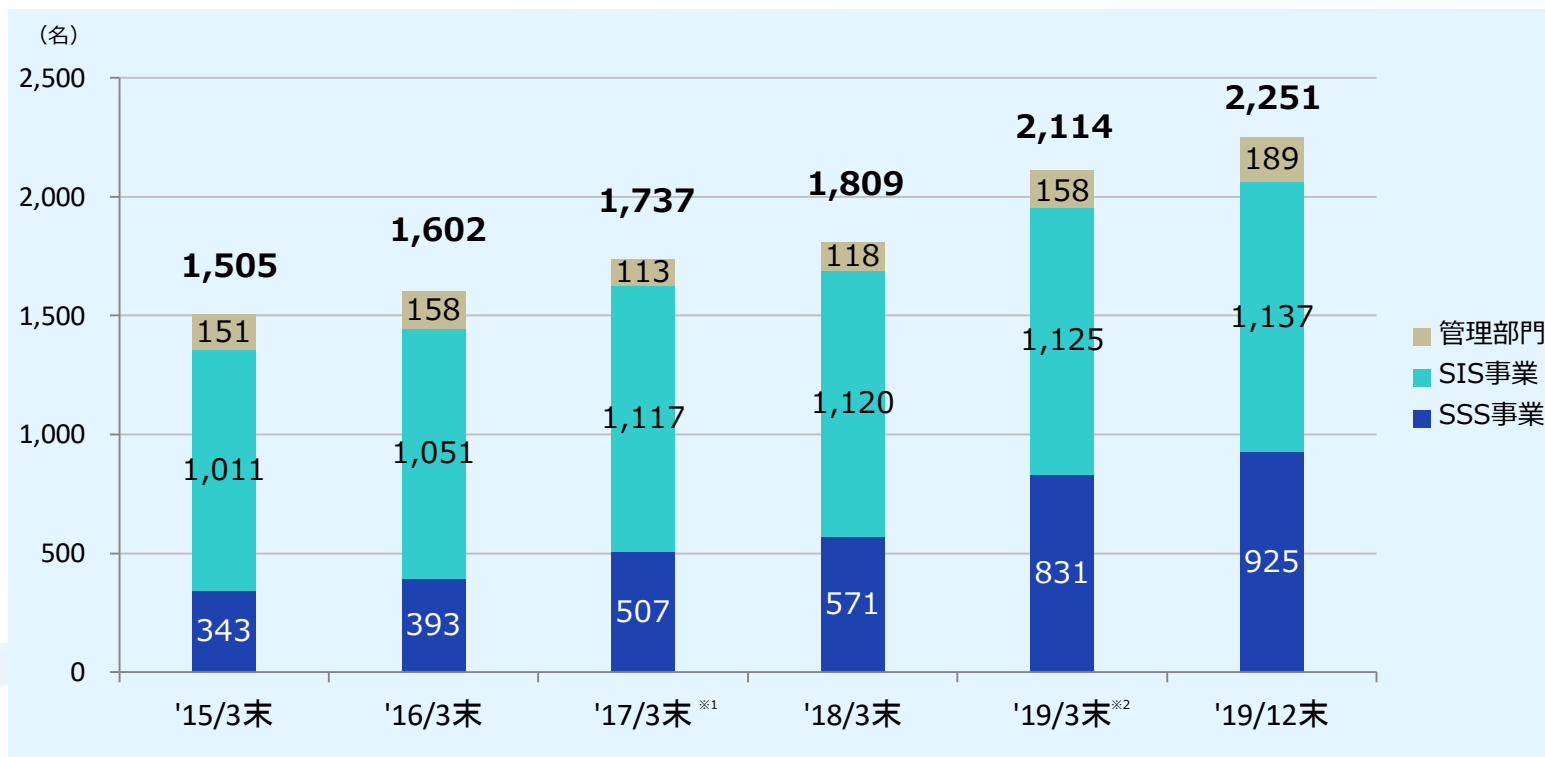
売上高	‘19年3月期		‘20年3月期		前年同期比	
	3Q実績	構成比%	3Q実績	構成比%	増減額	増減率%
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	3,594	39.8	4,160	41.6	+566	+15.7
セキュリティコンサルティングサービス	639	7.1	688	6.9	+48	+7.6
セキュリティ診断サービス	549	6.1	525	5.3	△23	△4.3
セキュリティ運用監視サービス	1,388	15.4	1,526	15.3	+137	+9.9
セキュリティ製品販売	687	7.6	1,113	11.1	+425	+61.9
セキュリティ保守サービス	328	3.6	306	3.1	△22	△6.7
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	5,443	60.2	5,831	58.4	+387	+7.1
開発サービス	3,379	37.4	3,565	35.7	+185	+5.5
HW／SW販売	471	5.2	749	7.5	+277	+58.8
IT保守サービス	1,220	13.5	1,188	11.9	△32	△2.6
ソリューションサービス	371	4.1	327	3.3	△43	△11.8
合計	9,038	100.0	9,991	100.0	+953	+10.5

2020年3月期 セグメント別業績（3Q累計：9カ月）

（百万円）

売上高	‘19年3月期		‘20年3月期		前年同期比	
	3Q累計実績	構成比%	3Q累計実績	構成比%	増減額	増減率%
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	10,401	38.8	11,464	39.8	+1,062	+10.2
セキュリティコンサルティングサービス	1,956	7.3	1,921	6.7	△35	△1.8
セキュリティ診断サービス	1,473	5.5	1,389	4.8	△83	△5.7
セキュリティ運用監視サービス	3,974	14.8	4,154	14.4	+180	+4.5
セキュリティ製品販売	2,052	7.7	2,960	10.3	+908	+44.3
セキュリティ保守サービス	945	3.5	1,037	3.6	+92	+9.8
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	16,393	61.2	17,346	60.2	+952	+5.8
開発サービス	10,401	38.9	10,831	37.6	+429	+4.1
HW／SW販売	1,417	5.3	1,846	6.4	+429	+30.3
IT保守サービス	3,523	13.1	3,614	12.5	+91	+2.6
ソリューションサービス	1,051	3.9	1,053	3.7	+2	+0.3
合計	26,795	100.0	28,810	100.0	+2,015	+7.5

連結従業員数の推移



※1 2018年3月期より、定年再雇用の増加や契約の長期化などを鑑み、契約社員を含めた基準に変更しています。加えて、主に管理部門において、関連する業務に沿った事業区分に見直しています。なお、SSS、SISの両事業に携わる従業員について、稼動状況を踏まえた区分としております。2017年3月末の人員数は同基準により遡及して算出していますが、2016年3月末以前については従来基準の従業員数となっています。

※2 2019年3月期以降のSSS事業における連結従業員数は、2018年4月2日に子会社化した(株)アジアリンクの従業員が含まれています。

■ 「TeamViewer」によるリモート接続ソリューションで支援（2019年4月）

業務の効率化や働き方の多様化といった業務変革に取り組む企業に対し、セキュアで効果的なリモート接続ソリューションを活用した支援を行うため、TeamViewerジャパン(株)との包括的なパートナー契約を締結し、協業を開始。

リモート接続製品「TeamViewer」に、ラックのセキュリティ対策の知見を活用することで、安全にリモート接続ソリューションを提供することが可能。

■ TISとクラウドおよびセキュリティ領域で協業（2019年5月）

TIS(株)と、クラウドサービスおよびセキュリティサービスの領域において協業。

マルチクラウド分野で豊富な実績とノウハウを持つTISとセキュリティ分野において業界屈指の知見を有するラックの双方の強みを活かし、金融、製造・サービスなどのエンタープライズ企業および公共分野向けにサービスを共同で展開。

■ サポート終了製品の延命支援サービスの提供を開始（2019年6月）

サポート終了を間近に控えたWindows Server 2008を利用するユーザーに対して、マイクロソフト社のクラウド環境へ移行し3年間の延命を実現する「セキュリティ診断付Azure移行支援サービス」の提供を開始。

クラウドへ移行したシステムのセキュリティ診断を行い、クラウド利用のセキュリティ上の懸念を解消。

■ 無料調査ツール「FalconNest」にメモリ領域の検査機能を追加（2019年7月）

セキュリティ調査ツール「FalconNest（ファルコンネスト）」に、PCのメモリ領域を調査しマルウェアを検知する機能「Phantom Seeker（ファントムシーカー）」を新たに追加し公開。

マルウェアの主な機能をメインメモリ内に巧妙に潜ませる手法に対応し、既存の「Live Investigator」「Malware Analyzer」とあわせて、マルウェア感染で必要となる初期調査対応を概ねカバー。



■ 英国Assuria社とサイバーセキュリティ事業協業について発表（2019年7月）

海外で事業展開を行う日系企業のセキュリティ対策の支援強化に向けて、セキュリティ監視領域を中心に協業開始。

海外市場で実績のあるAssuria製品と、ラックが日本で培ったサイバーセキュリティの知見・運用ノウハウを活かしたセキュリティサービスを共同で開発し、国内とASEAN地域からサービス展開することを目的に協業。将来、ASEAN地域での実績を元にその他地域へのサービス展開も視野。

■ HashiCorp Japan社と認証・認可情報管理ソリューションで協業開始（2019年8月）

認証・認可情報（シークレット情報）管理ソリューションの普及を目指した協業を開始。

システム開発者や運用担当者は、「Vault（ヴォルト）」を活用することで、統一のセキュリティポリシーのもと複数のクラウド環境下で自動的にIDやパスワードなどの認証情報を適切に管理・保護でき、セキュリティ確保のための管理負担を大きく抑制することが可能。



■ マネージドEDRサービス for CrowdStrikeの提供開始について（2019年8月）

エンドポイントのセキュリティ対策であるEDR（Endpoint Detection and Response = エンドポイントでの検知と対応）のマネージドサービスにCrowdStrike®を対象に加えた、「マネージドEDRサービス for CrowdStrike」の提供を開始。

複数のEDR製品の中より、未知の脅威に対する検知精度の高さや、脅威インテリジェンスとの連携や脅威ハンティング機能に優れるCrowdStrike社の「CrowdStrike Falcon®」を採用し、お客様に代わってラックがエンドポイントの監視・隔離・調査を対応。

■ 九州工業大学とAIを活用したサイバー防御における共同研究を開始（2019年8月）

国立大学法人九州工業大学と、日々複雑化しているサイバー攻撃からの被害を受ける前に攻撃を防御するAI活用技術（次世代データ分析手法）の確立を目指し、2019年9月1日より共同研究を行うことに合意。

AIに関する研究で高い知見を持つ九州工業大学と、潜伏した脅威と兆候を検知し未然に防御するためのAIを活用した次世代データ分析に関し共同研究を推進。

■ 「顔認証のぞき見ブロッカー」の販売を開始（2019年9月）

政府が推進する「働き方改革」の一環として急速に普及が進む「テレワーク」の安全性を高めるため、(株)セキユアとパートナー契約を締結し、「顔認証のぞき見ブロッカー」の販売を開始。

「画面に表示された情報の保護」に特化した端末インストール型ソフトウェアであり、顔認証技術を活用することで、事前登録した人物以外の顔を検知した場合や操作者の不在を検知した場合にパソコン画面をロックし、のぞき見を防止。

■ 合併会社「レッドチーム・テクノロジーズ」の事業開始（2019年12月）

(株)デジタルハーツホールディングスと12月1日に合併会社「(株)レッドチーム・テクノロジーズ」を設立し事業を開始。

世界有数のホワイトハッカーを活用したクラウドソースペネトレーションテストを事業として提供。サイバーセキュリティを経営課題と捉える大手金融機関や大手流通企業、決済事業者等の企業に向けて、従来より低価格・短納期で拡大する需要にも対応できるサービス。

■ マルチクラウドの基盤構築・管理を自動化する「Terraform Enterprise」提供（2019年12月）

クラウド環境のインフラ構築・管理を、従来のGUIからプログラムコード化することで、簡便化・迅速化・確実化するHashiCorp（ハシコープ）社の「Terraform Enterprise（テラフォーム エンタープライズ）」の取り扱いを開始。

対象となるクラウドが数百台、数千台に及ぶような場合でも、GUIを通した手作業による設定を行うことなくインフラ環境の構築、変更を自動で行うことができ、人為的なミスを引き起こすことなく正確かつスピーディな対応が可能。

■ 資産譲渡により「Secure Coding Checker」の提供を開始（2020年4月予定）

Androidアプリの脆弱性診断を行う「Secure Coding Checker」を提供するソニーデジタルネットワークアプリケーションズ(株)と資産譲渡契約に合意。

開発したアプリをWebブラウザからアップロードするだけの簡単な操作で網羅的な診断ができ、問題のある箇所と理由の表示に加え、JSSECセキュアコーディングガイドの該当部分へのリンクが表示され、修正方法を素早く簡単に知ることが可能。



- ※ 本資料は2020年2月現在の情報に基づいて作成しており、記載内容は予告なく変更される場合があります。
- ※ LAC、ラック、JSOC、サイバー救急センターは株式会社ラックの登録商標です。
- ※ その他記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。

株式会社ラック

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-16-1
平河町森タワー

Tel 03-6757-0107 (IR直通)

ir@lac.co.jp

www.lac.co.jp